ESET File Security for Linux V7.2
機能紹介資料

第5版

2021年12月15日

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

はじめに(本資料について)

本資料はLinuxサーバーOS向けウイルス・スパイウェア対策プログラムの機能を紹介した資料です。

プログラム名	種別
ESET File Security for Linux V7.2(略称表記：EFSL)	Linux サーバー用　ウイルス・スパイウェア対策プログラム

・本資料で使用している画面イメージは使用するOSにより異なる場合があります。また、今後画面イメージや文言が変更される可能性がございます。

・上記のプログラムはオンプレミス型セキュリティ管理ツールである ESET Security Management Center V7.1 / V7.2(※以降ESMC)、またはESET PROTECT V8.X(※以降EP)、クラウド型セキュリティ管理ツールであるESET PROTECT Cloud(※以降EPC)で管理が可能です。
ESMCとEP、EPCの機能紹介は、別資料でご用意しております。
ESMCとEP、EPCは、法人向けサーバー・クライアント用製品「ESET PROTECTソリューション」をご契約のお客さまのみ利用可能です。

・「ESET PROTECTソリューション」ではWindows、Mac、Android OS向けのプログラムもご使用いただけます。
また、LinuxクライアントOS向けのプログラムもご使用いただけます。
「ESET File Security for Linux / Windows Server」では、Windows Server OS向けのプログラムもご使用いただけます。
各プログラムの機能紹介は別資料でご用意しています。

・ESET、NOD32、ThreatSense、LiveGrid、ESET Endpoint Protection、ESET File Security、ESET NOD32アンチウイルス、ESET Security Management Center 、ESET PROTECTは、ESET,spol. s. r. o.の商標です。

©Canon Marketing Japan Inc.

もくじ

1. サポート環境
2. Webインターフェースについて
3. 詳細設定について
4. ESET File Security for Linux4.5との違い
   (1)インストールについて
   (2)Webインターフェース
   (3)アクティベーション
5. EFSL V4.5との機能比較

©Canon Marketing Japan Inc.

サポート環境

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

1. サポート環境

項目	条件	備考
OS	Red Hat Enterprise Linux 6.X (64bit) Red Hat Enterprise Linux 7.X (64bit) Red Hat Enterprise Linux 8.X (64bit) SUSE Linux Enterprise 12 SP1まで（64bit) SUSE Linux Enterprise 15 SP1まで（64bit) CentOS 6.X (64bit) CentOS 7.X (64bit) CentOS 8.X (64bit)	Red Hat Enterprise Linux (以降、RHEL) SUSE Linux Enterprise (以降、SUSE)
仮想環境	VMware ESX/ESXi 4.0/4.1 VMware ESX/ESXi 5.0以降 Citrix XenServer 5.6 Windows Server 2008 R2 Hyper-V Windows Server 2012 Hyper-V Windows Server 2012 R2 Hyper-V Windows Server 2016 Hyper-V Windows Server 2019 Hyper-V	仮想化ソフトウェアがOSをサポートしていること
クラウド コンピューティング環境	Amazon Web Services	
CPU	Intel,AMD(64bit)	
メモリ	256MB以上	
ハードディスク	700MB以上	
必要ソフトウェア	・kernel 2.6.32-431 以降か kernel 3.10.0-514 以降 または kernel 4.18.0-80 以降のバージョンが導入されていること ・glibc 2.12以降のバージョンが導入されていること ・elfutils-libelf-devel が導入されていること	・libselinux (RHEL, CentOSのみ必要。最新パッケージをご利用ください) ・selinux-policy-devel (SELinux有効で利用される場合) ・elfutils-libelf-devel（RHEL8, CentOS8 のみ必要）
その他	UTF-8エンコーディングを使用する任意のロケール	

©Canon Marketing Japan Inc.

Webインターフェースについて

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

2. Webインターフェースについて

(1)ダッシュボード

- ダッシュボードから保護状況の確認が可能です。また、検出エンジンの手動アップデートやロールバック、アクティベーションなどを行うことが可能です。

■ダッシュボード画面(例：保護の状態)

■ダッシュボード画面(例：モジュールのアップデート)

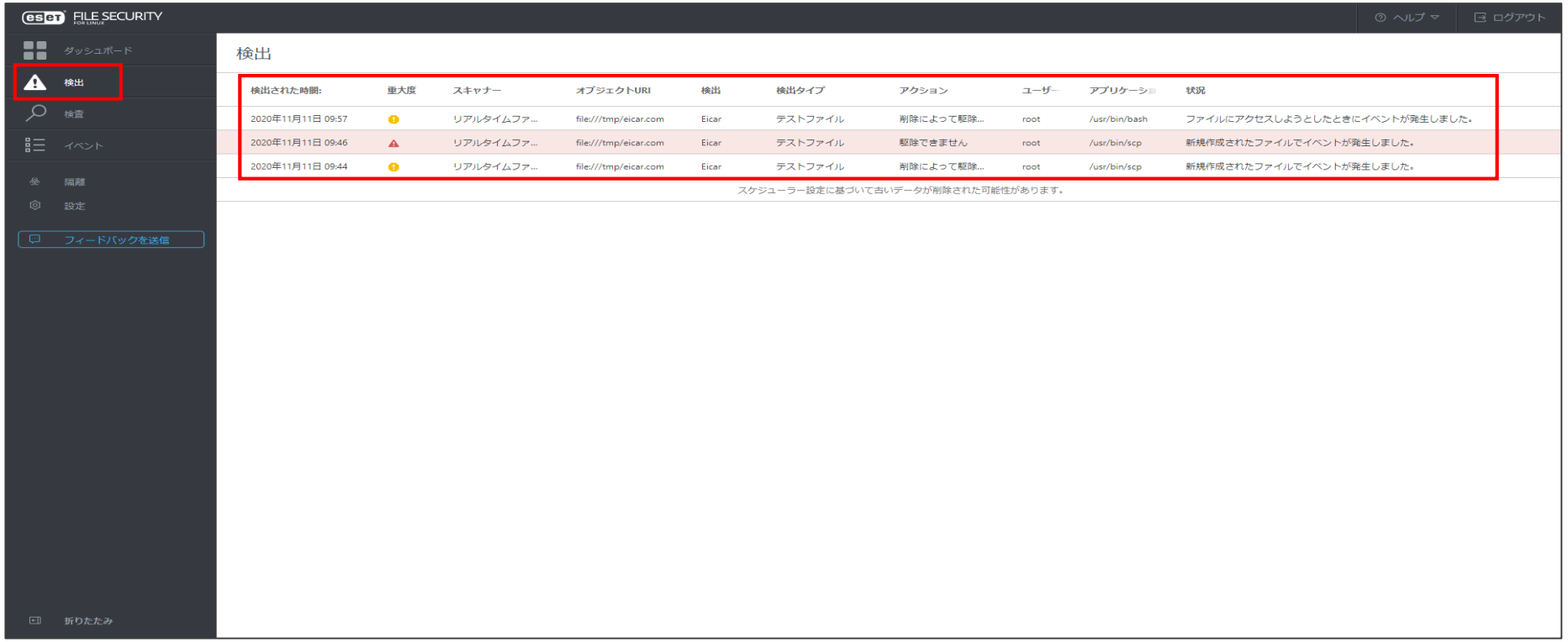
©Canon Marketing Japan Inc.

2. Webインターフェースについて

(2)検出

- 検出されたすべての脅威とそれらに対して実行されたアクションは、検出画面に記録されます。脅威が検出され、駆除されていない場合は、行全体が赤色でハイライトされます。検出された悪意があるファイルの駆除を試行するには、特定の行をクリックし、「駆除して再検査」を選択します。

■検出結果画面



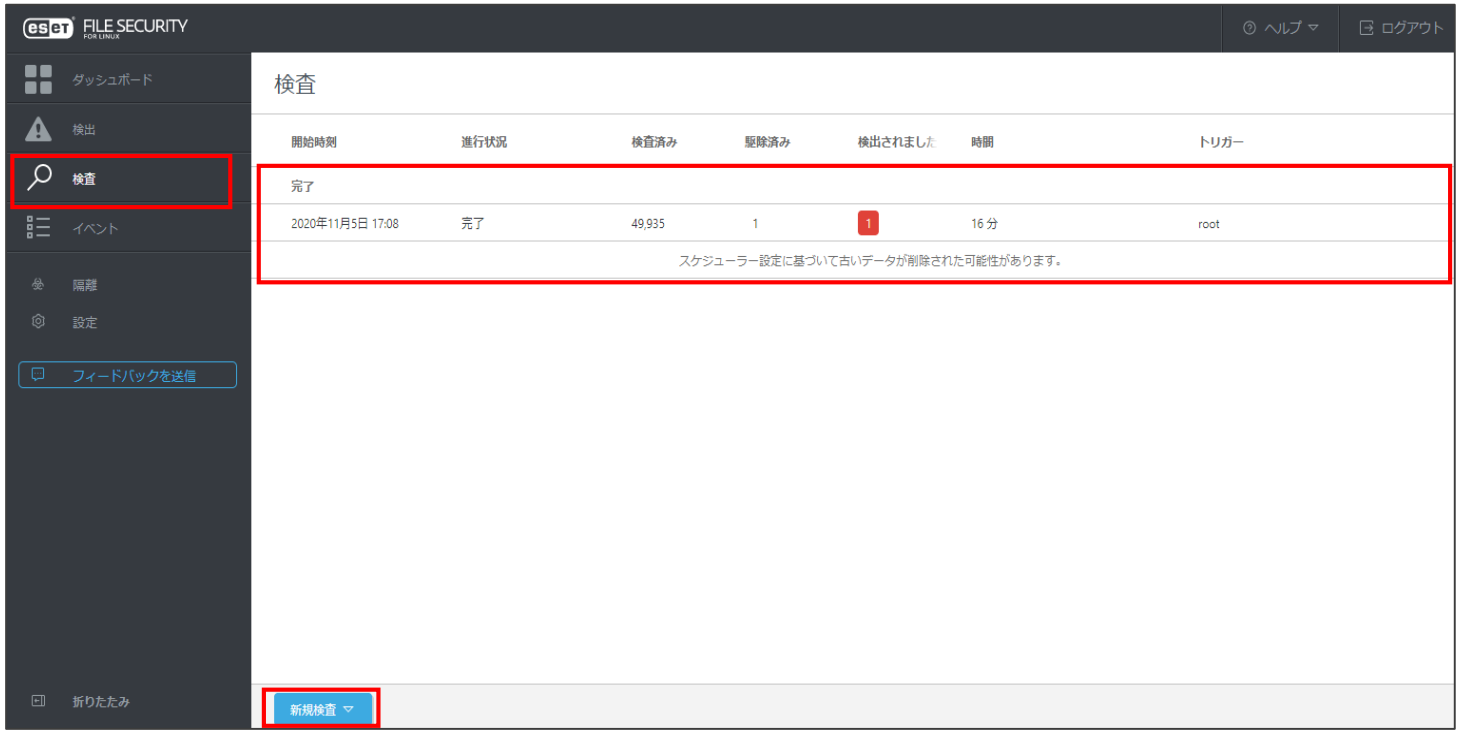
©Canon Marketing Japan Inc.

2. Webインターフェースについて

(3)検査

- 手動でのオンデマンド検査が可能です。「すべてのローカルドライブを検査」と「カスタム検査」が選択可能で、「カスタム検査」では、事前に作成したプロファイルに基づいた検査や検査対象を指定した検査が可能です。また、検査結果をクリックすることで詳細情報が確認可能です。

■検査画面



■検査の詳細画面①

■検査の詳細画面②

©Canon Marketing Japan Inc.

2. Webインターフェースについて

(4)イベント

- EFSL V7.2のWebインターフェイスで実行される重要なアクション、Webインターフェースへのログインの失敗、ターミナルから実行されるEFSL V7.2関連のコマンド、および一部のその他の情報はイベント画面に出力されます。

■イベント画面

時刻	コンポーネント	イベント	ユーザー
2020年11月5日 17:09	認証サービス	無効な資格情報	eset-efs-authd
2020年11月5日 16:15	更新サービス	モジュールが正常にアップデートされました。	eset-efs-updated
2020年11月5日 15:15	更新サービス	モジュールが正常にアップデートされました。	eset-efs-updated
2020年11月5日 15:09	サービスを開始しています	ソケットから読み取れません: ピアによって接続がリセットされました	root
2020年11月5日 15:09	構成サービス	ソケットに書き込めません: 破損したパイプ	eset-efs-confd
2020年11月5日 15:09	構成サービス	ソケットに書き込めません: 破損したパイプ	eset-efs-confd
2020年11月5日 15:09	ログサービス	ソケットに書き込めません: 破損したパイプ	eset-efs-logd
2020年11月5日 15:04	更新サービス	モジュールが正常にアップデートされました。	eset-efs-updated
2020年11月5日 14:59	リアルタイム保護サービス	アクセス中の検査のシステムハンドラーの初期化が失敗しました。OSを更新して、コンピューターを再起動してから...	root
2020年11月5日 14:59	リアルタイム保護サービス	ファイル/lib/modules/3.10.0-957.el7.x86_64/eset/efs/eset_rtp.koを開けません: ファイルまたはディレクトリがありま...	root
2020年11月5日 14:57	更新サービス	検出エンジンが正常にバージョン22268 (20201105)にアップデートされました。	eset-efs-updated
2020年11月5日 14:56	ライセンスサービス	同じ名前のコンピュータがこのアカウントに存在します。	eset-efs-licensed
2020年9月2日 14:20	リアルタイム保護サービス	アクセス中の検査のシステムハンドラーの初期化が失敗しました。OSを更新して、コンピューターを再起動してから...	root
2020年9月2日 14:20	リアルタイム保護サービス	ファイル/lib/modules/3.10.0-957.el7.x86_64/eset/efs/eset_rtp.koを開けません: ファイルまたはディレクトリがありま...	root
2020年9月2日 14:19	認証サービス	無効な資格情報	eset-efs-authd

©Canon Marketing Japan Inc.

2. Webインターフェースについて

(5)隔離

- EFSL V7.2によって隔離されたファイルを表示します。隔離された時間やファイルのパス、理由などの確認ができます。
  隔離されたファイルをクリックすることで、以下のアクションが可能です。

■隔離画面

【復元】 : 隔離された検体を復元します
(再度誤検知されないように「検出除外」の設定が必要です)
【パスのコピー】 : 検体が検出されたパスをコピーします
【ダウンロード】 : 隔離された検体をブラウザからダウンロードします
【隔離から削除】 : 隔離された検体を削除します

©Canon Marketing Japan Inc.

2. Webインターフェースについて

(6)設定

- 検出エンジン、アップデート、ツールについて設定の確認や変更を行うことが可能です。また、業務を行ううえで一時的にESETの保護機能を変更させたい場合は、Webインターフェースから設定を一時的に有効や無効にすることが可能です。

■設定画面

【検出エンジン】
検出エンジンの項目では、検出するアプリケーションの種類を定義するスキャナオプションや特定のファイルやフォルダをウイルス検査の対象から外す除外、各保護機能の詳細設定が可能です。

【アップデート】
アップデートの項目では、検出エンジンの取得先を変更することなどが可能です。
アップデートモードは通常のアップデートモードのほか、通常の検出エンジンの配信より少し早く配信されるテストモードや、逆に通常配信後12時間経過してから配布される遅延アップデートを選ぶことが可能です。

【ツール】
ツールの項目では、スケジューラ機能によるオンデマンド検査やプロキシサーバの設定、Webインターフェースのパスワード/SSL証明書の変更が可能です。

©Canon Marketing Japan Inc.

詳細設定について

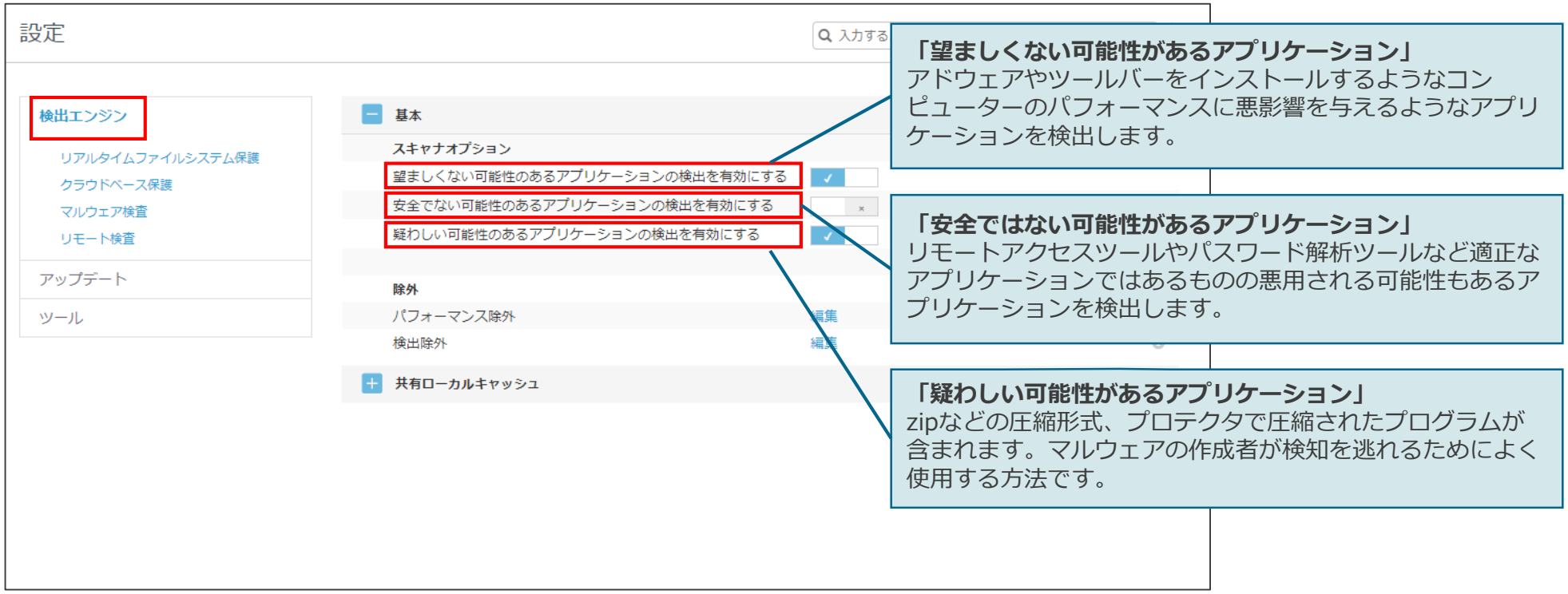
Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

3. 詳細設定について

(1)検出エンジン

- 検出エンジンの項目では、コンピューターのパフォーマンスを低下させる恐れのあるアプリケーションや不正利用される可能性のあるアプリケーションを検出させるかどうかを設定することなどが可能です。

■検出エンジン設定画面



「望ましくない可能性があるアプリケーション」
アドウェアやツールバーをインストールするようなコンピューターのパフォーマンスに悪影響を与えるようなアプリケーションを検出します。

「安全ではない可能性があるアプリケーション」
リモートアクセスツールやパスワード解析ツールなど適正なアプリケーションではあるものの悪用される可能性もあるアプリケーションを検出します。

「疑わしい可能性があるアプリケーション」
zipなどの圧縮形式、プロテクタで圧縮されたプログラムが含まれます。マルウェアの作成者が検知を逃れるためによく使用する方法です。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

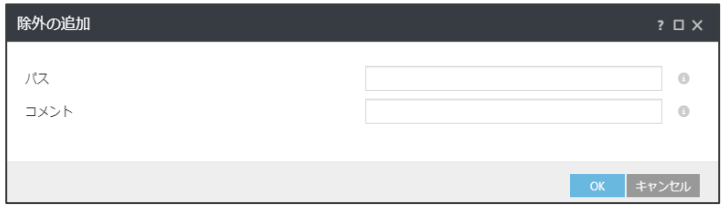
(2)除外

- 除外の設定を行うことで、特定のファイルやフォルダをウイルス検査の対象から外すことが可能です。パス、ハッシュ値、検出名で除外設定を行えます。独自開発したアプリケーションやデータベースなどを除外の対象とすることで、誤検知やデータベースなどを検査した際のCPU使用率の上昇を防ぐことが可能です。

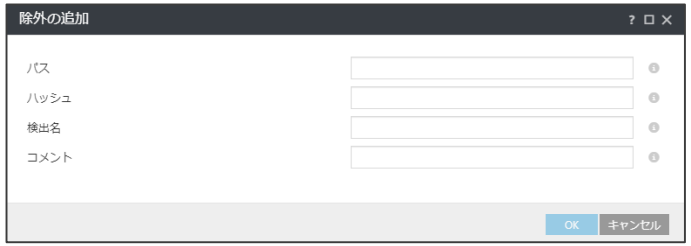
■検出エンジン設定画面

「パフォーマンス除外」
特定のファイルやフォルダを検査対象から除外することが可能です。特定のファイルやフォルダを検査対象から除外することが可能です。

■パフォーマンス除外設定画面



■検出除外設定画面



「検出除外」
指定したパスの検査は行いますが、ルールに定められたオブジェクトやハッシュを検出から除外します。指定したパスの検査は行いますが、ルールに定められたオブジェクトやハッシュを検出から除外します。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(3)リアルタイムファイルシステム保護

- リアルタイムファイルシステム保護を使用すると、ファイルのオープン時や作成時、また実行時に検査を行うことが可能です。リアルタイムファイルシステム保護はシステム起動時に開始され、中断することなく常に端末を保護します。

■リアルタイムファイルシステム保護設定画面

【ローカルドライブ】 ：システムハードディスクをすべて検査
【リムーバブルメディア】：CD/DVD、USBなどを検査
【ネットワークドライブ】：マッピングされたドライブをすべて検査

【ファイルのオープン】
開いたファイルの検査を有効または無効にします。
【ファイルの作成】
作成するファイルの検査を有効または無効にします。
【リムーバルメディアアクセス】
コンピューターに接続するときにリムーバルメディアの自動検査を有効または無効にします。

※以下のKernelのバージョンが揃っていない場合、リアルタイムファイルシステム保護は有効にできません。
■RHEL / CentOSの場合：Kernel, kernel-devel, kernel-headers　■SUSEの場合：kernel-default, kernel-default-devel, kernel-devel, kernel-macros

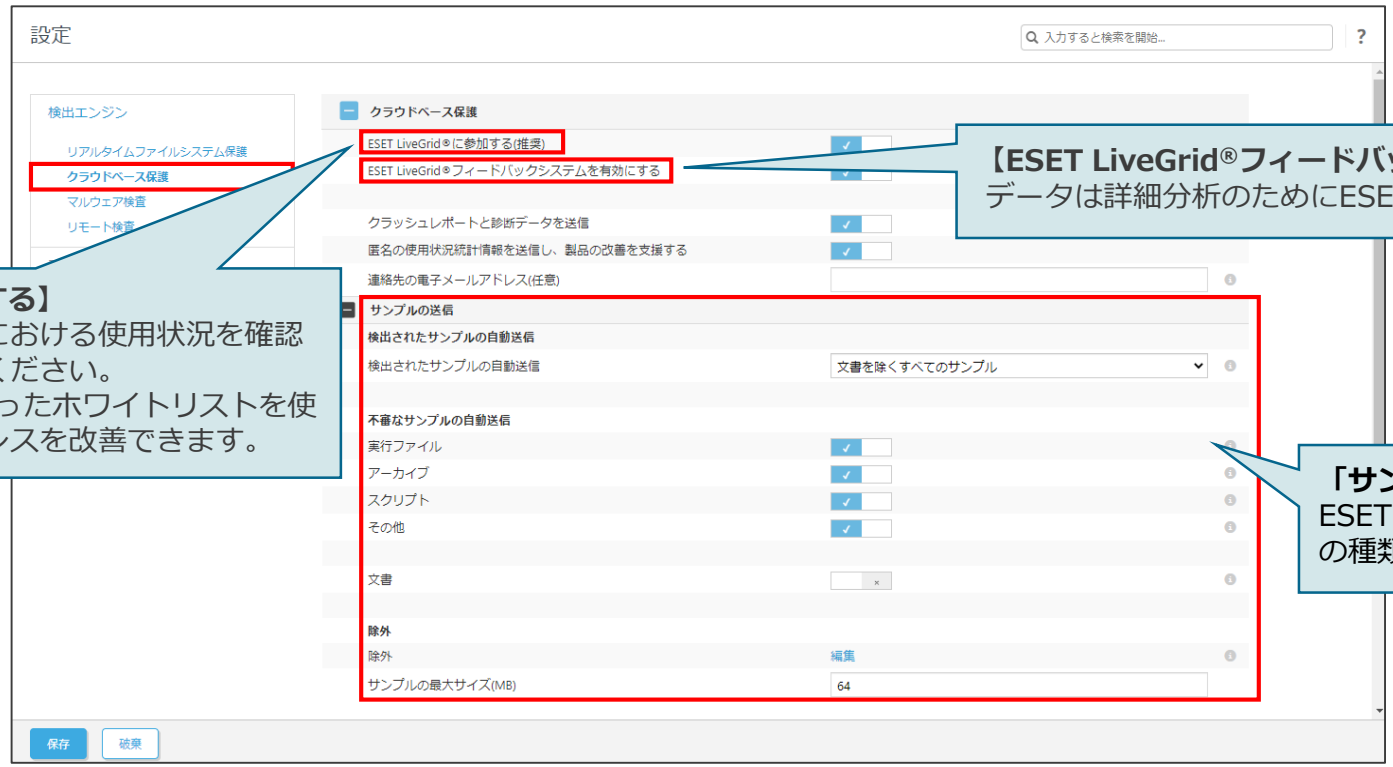
©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(4)クラウドベース保護

- ESET LiveGrid®に参加すると、クラウドシステムにより実行中のプロセスの全世界における使用状況が共有されます。これにより実行中のプロセスのリスクレベルを確認できます。 ESET LiveGrid®に不審なファイルを送付すると、送付されたファイルはESET LiveGrid®により解析されます。これは新たな脅威からESETユーザーを守ることにつながります。

■クラウドベース保護設定画面



【ESET LiveGrid®に参加する】
実行中のプロセスの全世界における使用状況を確認するにはチェックを付けてください。
ESET LiveGrid®から受け取ったホワイトリストを使用してスキャンパフォーマンスを改善できます。

【ESET LiveGrid®フィードバックシステムを有効にする】
データは詳細分析のためにESET研究所に送信されます。

「サンプルの送信」
ESET LiveGridに送信するサンプルファイルの種類を設定することが可能です。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(5)マルウェア検査

- マルウェア検査では、オンデマンド検査の詳細設定を行うことが可能です。検査の対象やウイルス発見時のアクションを設定できます。オンデマンド検査に使用するプロファイルの作成や、システム起動時に実施されるスタートアップ検査の設定が可能です。

■マルウェア検査設定画面

【選択されたプロファイル】
編集するオンデマンド検査用のプロファイルを選択します。
【プロファイルのリスト】
「編集」ボタンから、新たにオンデマンド検査用のプロファイルを作成することができます。

【ブートセクタ/UEFI】
UEFIスキャナーは、HIPSの一部であり、コンピューターのUEFIを保護します。UEFIはブートプロセスの最初にメモリに読み込まれるファームウェアです。UEFIスキャナーにより、UEFIに感染しシステムを制御するマルウェアの検出が可能です。

©Canon Marketing Japan Inc.

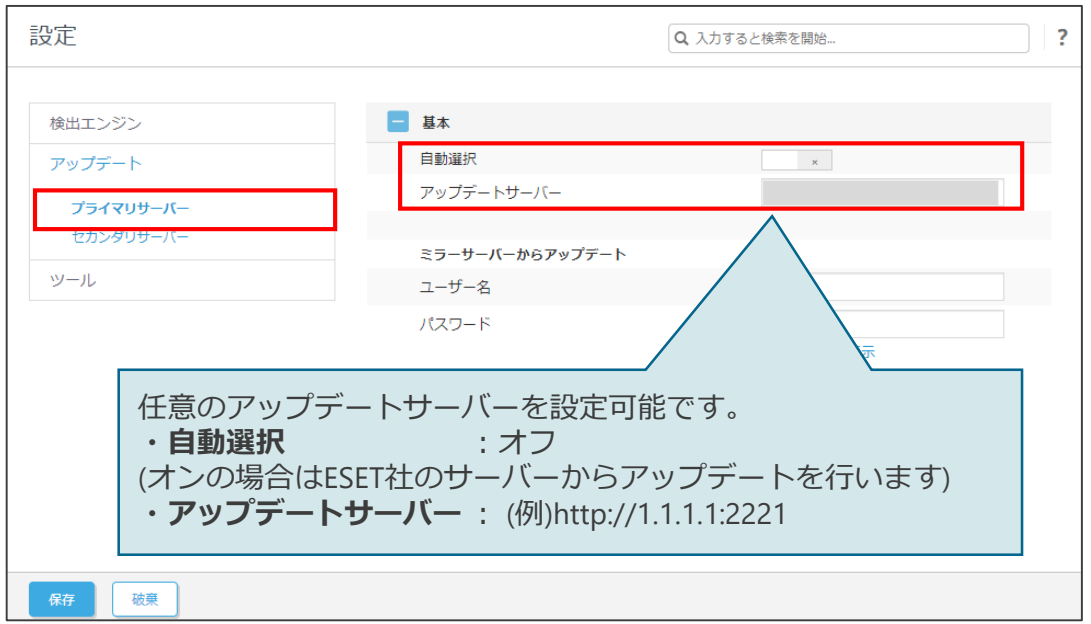
3. 詳細設定について

(6)アップデート

- アップデートでは、検出エンジンの取得先を変更することなどが可能です。アップデート先としてプライマリサーバー、セカンダリサーバーを設定することによってアップデート先の冗長化が可能です。

■アップデート詳細設定画面

■プライマリーサーバー設定画面



©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(7)ツール

- スケジューラ機能により、定期的なオンデマンド検査が可能です。オンデマンド検査に用いる検査プロファイルは、事前に作成した任意のプロファイルを使用することが可能です。また、検査の対象やウイルス検知時のアクションなども設定可能です。

■ツール設定画面

■タスク追加画面

任意のタスク名と**時刻**を設定し、オンデマンド検査が自動的にトリガーされる**曜日**を選択します。

■オンデマンド検査スケジューラ設定画面①

・任意の検査プロファイル
・検査の対象、
・オプション(検査して駆除、 検査除外)
を選択して、「完了」ボタンをクリックします。

■オンデマンド検査スケジューラ設定画面②

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(8)プロキシサーバ

- 検出エンジンのアップデートやESETのウイルス対策プログラムのアクティベーション(認証)をインターネット経由で行う場合、インターネットに接続する際にプロキシサーバを経由している環境では、プロキシサーバの設定を行う必要があります。

■プロキシサーバ設定画面

プロキシサーバを使用する場合は、
【プロキシサーバを使用】にチェックします。

プロキシサーバで認証が必要な場合は、 **【プロキシサーバは認証が必要】**にチェックを付け、有効なユーザー名とパスワードを入力します。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(9)Webインターフェース

- WebインターフェースではEFSL V7.2のインストール直後に自動生成されたWebインターフェースのログインパスワードから任意のパスワードに変更できます。また、Webインターフェースの SSL証明書の設定が可能です。

■Webインターフェース設定画面

■パスワード設定画面

【パスワードの設定】を選択し、新しいパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックします。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(10)ログファイル

- ログに記録する最低レベルやログローテーションの設定、Syslogにログを出力する場合はSyslogファシリティの設定が可能です。

■ログファイル設定画面

【重大な警告】　：重大なエラー(ウイルス対策の起動に失敗したなど)が含まれます。

【エラー】　：「ファイルのダウンロード中にエラーが発生しました」といったエラーや重大な警告が記録されます。

【警告】　：重大なエラーと警告メッセージとエラーが記録されます。

【情報レコード】：アップデートの成功メッセージを含むすべての情報メッセージと上記のすべてのレコードが記録されます。

【診断レコード】：プログラムおよび上記のすべてのレコードを微調整するのに必要な情報が含まれます。

©Canon Marketing Japan Inc.

3. 詳細設定について

(参考)コマンドラインベースの操作

- EFSL V7.2では、ターミナルウィンドウからも以下の操作が可能です。各オプションの詳細については、以下のコマンド内の[OPTIONS]部分に「-h」を入力することで確認可能です。

・オンデマンド検査
/opt/eset/efs/bin/odscan [OPTIONS]

・製品モジュールをアップデート
/opt/eset/efs/bin/upd [OPTIONS]

・隔離された項目の管理
/opt/eset/efs/bin/quar [OPTIONS]

・イベント画面の内容を表示
/opt/eset/efs/bin/lslog [OPTIONS]

・設定のエクスポート
/opt/eset/efs/sbin/cfg --export-xml=/tmp/export.xml

・設定のインポート
/opt/eset/efs/sbin/cfg --import-xml=/tmp/export.xml

【コマンド例】
・ディレクトリ「/root/exc_dir」を除外してオンデマンド検査を実行
/opt/eset/efs/bin/odscan --scan --exclude=/root/exc_dir

・任意のミラーサーバーからのアップデート
/opt/eset/efs/bin/upd --update --server=192.168.1.2:2221

・隔離された項目を一覧表示
/opt/eset/efs/bin/quar -l

・すべてのイベントログを出力する
/opt/eset/efs/bin/lslog -e

©Canon Marketing Japan Inc.

EFSL V4.5との違い

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

4. ESET File Security for Linux V4.5との違い

(1)インストールについて

- EFSL V7.2ではインストールの際、OSのオンラインリポジトリに接続できる場合は、EFSL V7.2インストール時に不足パッケージを同時に導入する仕様になっています。
- すでにEFSL V4.5がインストールされている場合は、EFSL V4.5をアンインストール後にEFSL V7.2をインストールします。上書きインストールによるバージョンアップはできません。
- EFSL V7.2では以下のディストリビューションでSELinuxがサポートされています。SELinuxを有効にした状態でEFSL V7.2を使用するには、「selinux-policy-devel」パッケージをインストールする必要があります。
  - **・Red Hat Enterprise Linux 6.X (64bit)**
  - **・Red Hat Enterprise Linux 7.X (64bit)**
  - **・Red Hat Enterprise Linux 8.X (64bit)**
  - **・CentOS 6.X (64bit)**
  - **・CentOS 7.X (64bit)**
  - **・CentOS 8.X (64bit)**
- Secure Bootはサポートしていません。EFSLインストール前にSecure Bootは無効にしてください。
- AWSカーネル、ELREPOカーネルを使用したLinuxディストリビューションはサポートされておりません。

※インストールにはroot権限(スーパーユーザー)が必要です。

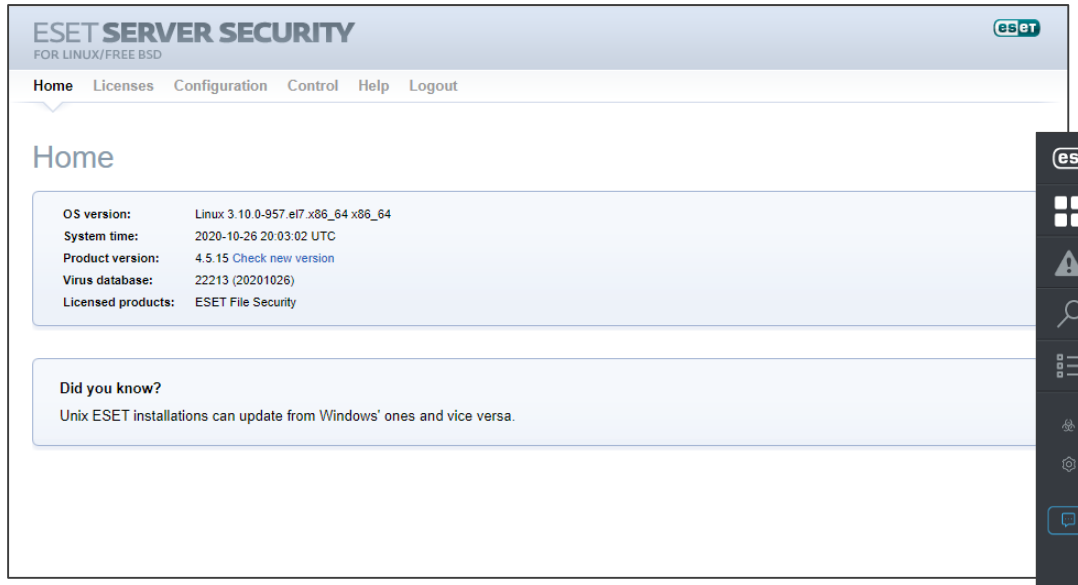
©Canon Marketing Japan Inc.

4. ESET File Security for Linux V4.5との違い

(2)Webインターフェース

- EFSL V7.2 はEFSL V4.5と同様にWebブラウザを使用したWebインターフェースが利用可能です。
- EFSL V7.2のユーザーインターフェースは日本語対応しています。

■EFSL V4.5のWebインターフェース



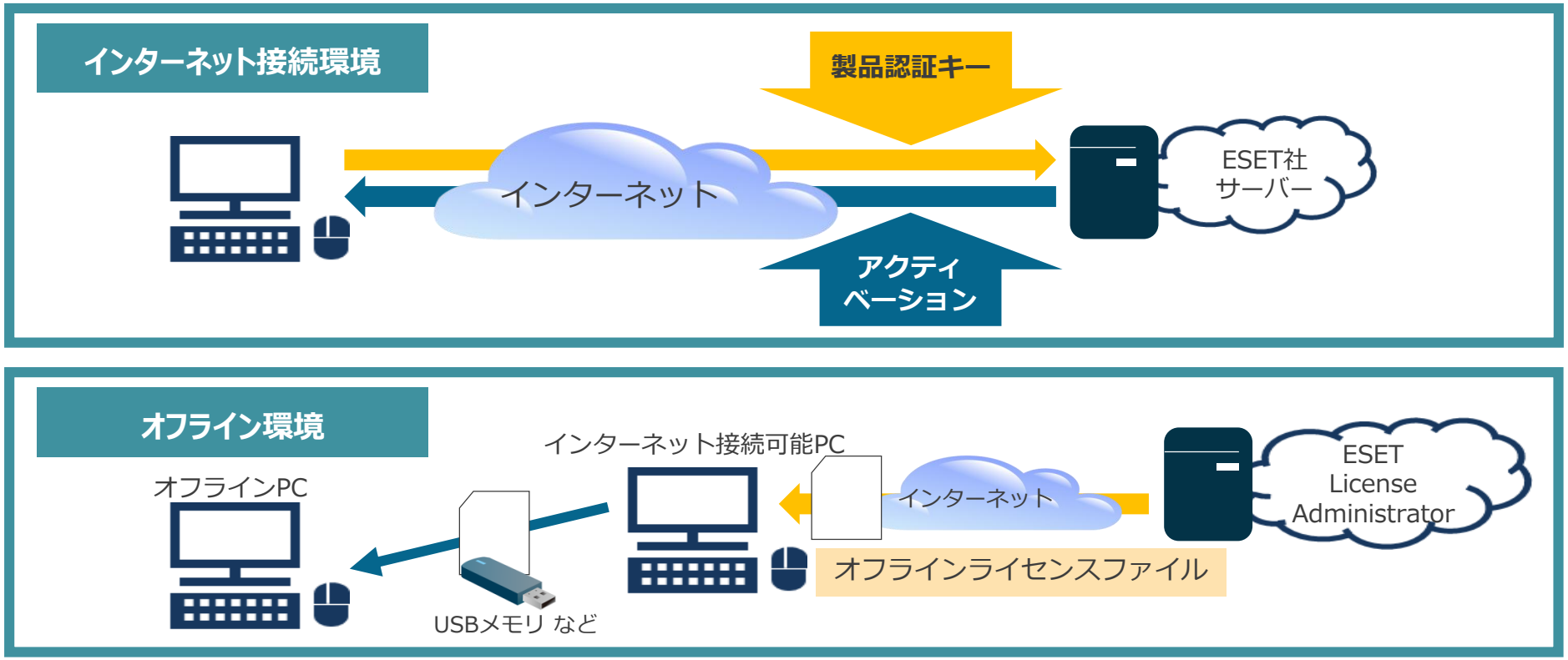
■EFSL V7.2のWebインターフェース

©Canon Marketing Japan Inc.

4. ESET File Security for Linux V4.5との違い

(3)アクティベーション①

- アクティベーションとは、製品を利用するために必要な認証作業です。ライセンスキーファイルを使用してプログラムを認証していたEFSL V4.5とは異なり、 EFSL V7.2では**製品認証キー**または**オフラインライセンスファイル**を使用したアクティベーション(認証)作業が必要となります。



©Canon Marketing Japan Inc.

4. ESET File Security for Linux V4.5との違い

(3)アクティベーション②

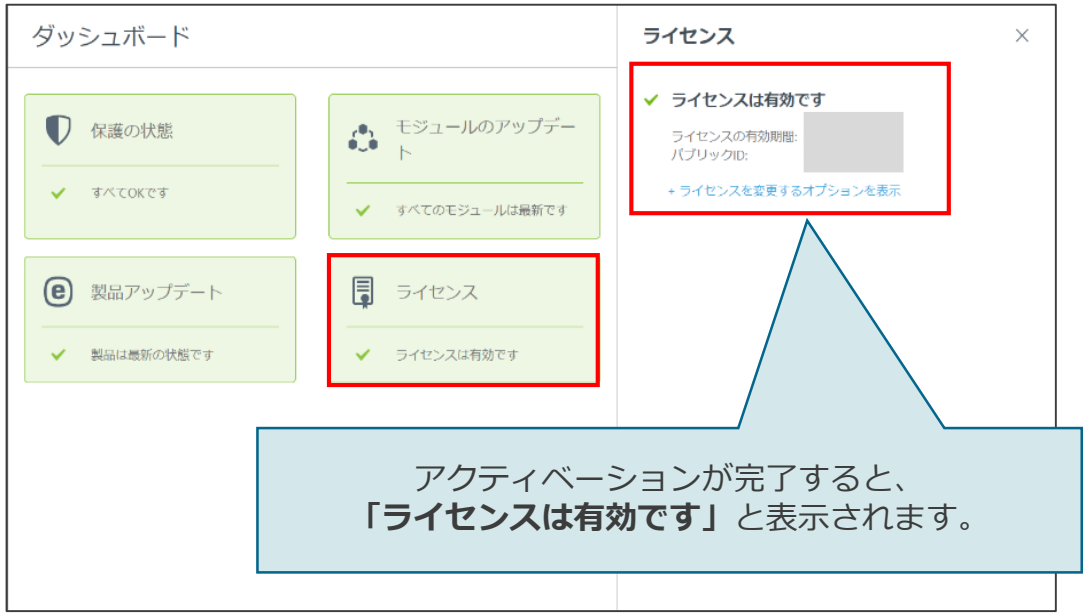
- Webインターフェースの「ダッシュボード」からアクティベーションが可能です。
- 「ESET PROTECTソリューション」 のセキュリティ管理ツールでEFSL V7.2の管理を行っている場合は、セキュリティ管理ツールからタスクを使用してアクティベーションを行うことが可能です。

■アクティベーション前のアラート画面

「製品認証キー」または**「オフラインライセンスファイル」**を使用しアクティベーションを行います。

※アクティベーションを行わないと検出エンジンのアップデートができません。

■アクティベーション完了後の画面



アクティベーションが完了すると、
「ライセンスは有効です」と表示されます。

©Canon Marketing Japan Inc.

EFSL V4.5との機能比較

Canon
キヤノンマーケティングジャパン株式会社

5. EFSL V4.5との機能比較

機能比較表①

機能名	EFSL V4.5	EFSL V7.2
ウイルス・スパイウェア対策		
オンデマンド検査	○	○
リアルタイム検査	○	○
UEFIスキャナー	×	○
除外機能	○	○
共有ローカルキャッシュ	×	○
ESET LiveGrid	○	○
検出エンジンの更新およびミラーサーバ機能		
検出エンジンのアップデート	○	○
検出エンジンの遅延アップデート	○	○
検出エンジンのロールバック機能	×	○
ミラーサーバー機能	○	○
アップデート先の冗長化	×	○

©Canon Marketing Japan Inc.

5. EFSL V4.5との機能比較

※1 セキュリティ管理ツールでクライアントを管理するには各クライアントにESET Managementエージェントの導入が必要です。
※2 EFSL V7.2はESET Security Management Center V7.1/V7.2で管理可能です。

機能比較表②

機能名	EFSL V4.5	EFSL V7.2
運用関連機能		
Syslogへの出力	○	○
コマンドラインインターフェース	○	○
設定のインポート、エクスポート	○	○
Webインターフェースでの設定	○	○
ESET Security Management Center V7による管理 ※1	○	○ ※2
ESET PROTECT V8による管理 ※1	×	○
統計表示(検出状況など)	○	○
その他の機能		
リムーバブルメディアの検査	×	○
スケジューラ機能	○	○
アクティベーションの必要性の有無	×	○
SELinuxのサポート	×	○

©Canon Marketing Japan Inc.